

金剛地区の新たなまちづくり

昭和40年代に日本住宅公団（現UR都市機構）により開発され、都心部への良好なアクセス、充実した都市基盤と良好な住環境を備えた「金剛地区」は、まちびらきから半世紀以上が経過し、人口減少や少子高齢化、施設の老朽化等、いわゆるニュータウン問題が顕在化しています。

富田林市では、地区住民の安心できる生活を守り、また新たにさまざまな人々が暮らし集うことのできるまちの魅力を向上させていくため、平成29年3月に「金剛地区再生指針」を地区住民等との協働により策定するとともに、令和4年3月には地区内の施設・エリア毎の方向性と導入機能を示す「金剛地区施設等再整備基本構想」を策定し、ソフト・ハードの両面から、住民・事業者等と連携した官民連携のまちづくりを進めています。



<https://www.city.tondabayashi.lg.jp/soshiki/104/>

■ 金剛地区再生指針

【将来像】

- 一人ひとりが煌き続けられるまち
- 閑静な趣を育み続けるまち

【取組項目】

- 地域の連携による「サービス」と「支え合い」の展開
- 多様な「住まい」の供給・流通の促進
- 豊かで多機能な「空間・施設」の充実
- まちを運営する「仕組み」の構築

<住民主体の取組例>



空き店舗を活用した
コミュニティカフェ わっくCafé



寺池公園の魅力化に向けた
プレーパーク&パラソルカフェ



商店街・市内農家と連携した
月イチマルシェ 金剛マルシェ

<公民連携の取組例>



UR都市機構と共同設置した
魅力向上拠点 ∞KON ROOM

■ 金剛地区施設等再整備基本構想



【金剛中央公園】



【南海金剛駅周辺】



【金剛銀座街商店街】



【寺池公園】



■ 都市空間の再編に向けて取組を進めています (2023.12現在)

【金剛中央公園の再整備】

老朽化した既存施設が抱える課題への対応や若者・子育て世代の定住促進等に向けた機能導入を早期に実現する観点から、金剛中央公園の再整備をリーディング・プロジェクトに位置付け、施設として優先的に整備を進めることとしています。

現在は、再整備後の詳細機能や施設規模、概算事業費、整備手法等を整理する基本計画の策定に取り組んでおり、R5年度中の策定完了をめざしています。

【ウォーカブルなまちづくり】

南海金剛駅を中心に、居心地が良く、歩きたくなる、ウォーカブルなまちなかづくりに取り組んでいます。

現在は、地域住民や事業者と連携し、公共空間等での社会実験やウォーカブルビジョン案の策定に取り組んでいます。

<R4年度の社会実験の様子>

